

水稲用除草剤ホームランA1キロ粒剤の 防除基準への採用

田口奈穂子・三浦恒子

1. ねらい

新しく開発された除草剤の除草効果と水稲の生育・収量に及ぼす影響について検討し、実用性の高い薬剤を選定して防除基準に採用する。

2. 試験方法

(1) 供試薬剤

薬剤名：ホームラン A1 キロ粒剤

有効成分：

オキサジクロメホン	0.8 %
ベンスルフロンメチル	0.3 %
アジムスルフロン	0.06 %

(2) 耕種概要

供試品種：あきたこまち

栽培方法：普通移植栽培（稚苗）

試験面積：1区 6 m²（2反復）

施肥量：基肥 N-P₂O₅-K₂O
各 6.5kg/10a（追肥なし）

代かき：5月6日（H10,11年）

移植：5月11日（H10年）、
5月10日（H11年）

(3) 処理時期

H10年：移植後 5日（ノビエ 1.5L）

移植後 7日（ノビエ 2.0L）

移植後 10日（ノビエ 2.5L）

H11年：移植後 5日（ノビエ 1.3L）

移植後 8日（ノビエ 2.0L）

移植後 11日（ノビエ 2.5L）

(4) 処理量

0.6g/6 m²（1kg/10a）を均一散布

3. 結果及び考察

(1) 除草効果

ノビエに対する除草効果は、各処理時期において、対無処理区比で 10%以下と極大の効果を示した。他の対象草種に対しても、高い効果が得られた（表 1）。

(2) 薬害

各処理時期において、イネに対する薬害及び生育・収量への影響はみられなかった（表 2）。

4. まとめ

ホームラン A1 キロ粒剤は、本県の防除基準では新規のヒエ剤であるオキサジクロメホン含有しており、ノビエ 2.5 葉期まで高い除草効果を示した。

また、イネに対する薬害などはみられなかったことから、実用性が高い。

本県における普及対象範囲は県内一円であり、使用時期は移植後 5日～15日（ノビエ 2.5 葉期まで）である。

処理時には 3～5cm の湛水状態で均一に散布し、3～4日は湛水状態を保ち水を落とさない。

減水深 2cm/日以下の水持ち良好田で使用し、漏水田や砂質土壌、極端な浅植、浮き苗の多い水田では生育抑制の薬害が強くなることがあるので使用を避ける。

図 表

表1. 水稲用初・中期一発処理剤ホームランA1キロ粒剤の除草効果

試験年度	処理時の ノビエの葉齢	処理量 (製品量/10a)	ノ	コ	一	マ	ホ	ヒ	総	薬
			ビ	ナ	年	ツ	タ	ル	合	
			エ	ギ	生	バ	ル	ム		害
					広	イ	シ	シ		
					葉		ロ			
平成10年	ノビエ1.5L	1kg	◎		◎		◎		◎	無
	ノビエ2.0L		◎		◎		◎		◎	//
	ノビエ2.5L		◎		◎		◎		◎	//
平成11年	ノビエ1.3L	1kg	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	無
	ノビエ2.0L		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	//
	ノビエ2.5L		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	//

注1. 除草効果は無除草区の残草量を100とした乾物重の比率

◎ : 0-10%、○ : 11-20%、□ : 21-40%、△ : 41-60%、× : 61%以上

注2. 薬害の基準

無 : 薬害は見られない

極微 : 生育に影響が見られない

微 : 生育に影響が見られるが回復し収量に影響がない

中 : 生育・収量に影響し減収率が6-15%

注3. 総合 ; 全草種を合計した乾物重の比率

表2 ホームランA1キロ粒剤処理が生育及び収量に及ぼす影響

試験年度	処理時期	生育調査				収量調査			
		最高分げつ期		出 穂 期	成 熟 期	穂 数	全 重	精 重	収 量
		草丈	茎数						
cm	本/m ²	月/日	月/日	本/m ²	kg/a	kg/a	kg/a		
平成10年度	ノビエ1.5L	40.2	340	8月4日	9月21日	394	146.8	77.9	60.8
	ノビエ2.0L	42.0	394			465	154.1	79.8	61.8
	ノビエ2.5L	41.8	380			465	157.6	78.8	61.5
	完全除草区	42.2	418			460	150.0	78.6	57.3
平成11年度	ノビエ1.3L	44.0	701	8月1日	9月14日	518	147.3	75.5	60.9
	ノビエ2.0L	44.0	693			507	150.1	75.4	60.9
	ノビエ2.5L	44.0	670			508	149.7	76.5	61.5
	完全除草区	46.0	665			471	153.5	74.9	58.7

注: 完全除草区はサンバード粒剤+手取り除草